

今回の東京大学企業見学訪問会の中で私が特に印象に残っているのは、ディレクトフォースです。班員と講師の方あわせて6人という少人数の中で、会話が弾むかどうか不安がありました。ですが、講師の方に積極的に質問をすることでより深い内容の話まで聞くことが出来ました。また、役職や経歴も珍しい方ばかりで、そのような人の体験談や考え方はとても貴重で参考になりものばかりでした。特に海外で働いている方の体験談は私にとって非常に興味深く、予想とは大きく異なるものばかりでした。以下に講師の方々から聞いた印象に残った話とそれに対する感想を書きました。

■海外での生活について

★初めに話をしてくださった田中さんの話を聞いて、海外での交渉には仲良くなる必要があることが分かりました。田中さんは各国のあらゆる首相や大臣と写真でツーショットを撮っていました。このような小さな親交から、国と国という規模の大きな国交へ変わっていくものだと思います。

★実際に海外へ行ってみて何か思うことはあるか尋ねてみました。マスコミが報道しているものとは全く違うので、現地に行ってみて感じる事が一番良い、百聞は一見に如かずとおっしゃっていました。実際に海外で働いていた方のその言葉は非常に重みがあり、感動しました。

★海外でのコミュニケーションにおいて、私は言語という大きな壁についてずっと心配をしていました。しかし、講師の方の中には現地に行ってから言葉を覚えたという方がいらっしゃいました。それは、言語を勉強して流ちょうに話せるようになってからではないと海外へ行くことはできないという私の中の常識を覆しました。現地で言葉を覚えるには、通訳者など日本語を話せる人を近くに置かないことが重要だとおっしゃっていました。初めは何も話せない状況で非常につらかったが、外国語で外国語を学び、その苦しみは無くなったとおっしゃっていました。つらいとはおっしゃっていたものの、私が思っていたほどは言葉の壁は厚くなく、やはり現地で直接聞くのが一番早く覚えるのだと思いました。

★国内と海外では文化が全く違うため、話が合わないのではないかと考えていました。そのため、相手の国の文化を理解し、自国の文化を理解してもらうにはどうすればいいかということ質問しました。実際には、文化の違いを意識することはなく、お互いの文化の共通点を見つけて話をすることが大切だそうです。これは文化に限らず、普通の会話においても同じことが言えるそうです。国境を越えても、根本的な考え方は共通であるため会話にはあまり困らないとおっしゃっていました。共通の話題を見つけて話すには、まず自国の文化をしっかりと理解しておく必要があると思いました。また、ニュースで宗教によるテロが後を絶たないのを見ていて、文化の違いがあればお互いの事を分かり合うことはできないと思っていました。しかし、他国とはいえは共通のことがたくさんあれば、話してみたいとすら思うようになりました。

★現地の言葉が話せず、通訳者さんをつけて現地の従業員と会話をするという講師の方がいらっしやったので、通訳を通してだと内容にすれ違いが無いかどうか伺いました。すれ違いは常につきもので、できるだけニュアンスの違いを無くするために専属の通訳者を雇っているそうです。細かいニュアンスまで分かり合うには、やはり現地の言語を覚えることが一番良いと思いました。

★海外の企業などの技術力などに関して、日本は海外の技術には劣っている部分もあるが、それぞれに長所と短所があるので、日本の長所をしっかりと守っていくことが大切だとおっしゃっていました。大国の技術に圧倒されがちな日本ですが、持ち味を発揮していくことが今後のグローバル社会を生き抜くうえで大切だと考えました。

★海外在住歴のある方からこれらのような話をうかがいました。実際には海外で生活することも日本で生活することとあまり変わらず、言語力などよりもコミュニケーション能力が重要であることが分かりました。とはいえ、どの講師の方も英語は大事なのでいまのうちに重点をおいて学習すべきだとおっしゃっていました。また、講師の方が海外での体験談を楽しそうに話してくださったので、私も海外へ行きたいと思うようになりました。

■仕事をする上で

★会社の経営をしていた講師の方がいらっしやったので、社員にどう接しているかを聞いてみました。人材育成という意味では、大勢いる社員の中から何人か優秀な社員を選び、その社員に高いハードルを与えて、その周りも刺激させることをしているとおっしゃっていました。同じ社員という立場からは、自分の意見を押し通すことはせずに、相手の意見を尊重し、お互い納得した上でものごとを決めるとおっしゃっていました。社長とはいえども、ただ単に権限を使うのではなく、指導する立場として、そして社員の一員としてそれぞれメリハリを持って行動することに感心しました。

★長年会社の社員として働き、のちに社長になったという講師の方は、仕事をしていると必ず壁に当たるが、その壁を超えようとするのではなく、ひたすら我慢をすることが大切で、その頑張りを見てくれている人が必ずいるものだとおっしゃっていました。仕事でも勉強でも部活でも、何かを本気で頑張ることはのちに何かの糧になるということを、講師の方の直々の体験談で改めて感じました。

★会社で海外との交渉をよくしていたという講師の方は、会社同士の裁判はよくあることで、それを避けるのではなくどう対処していくかが大切だとおっしゃっていました。裁判と聞いて始めは驚きましたが、海外で仕事をしていくには困難への覚悟は持っておかなければならないと思いました。

★会社では信頼される人になることが大切とおっしゃっていた講師の方に、どのようにすれば信頼される人になれると思うか聞いてみました。その講師の方の考えでは、信頼される人になろうと思うことが一番大切であるとのことでした。

★海外でボランティア活動をしたことがある講師の方に、ボランティアなどの行動の原点は何か聞いてみました。その方は、やりたいと思ったことはすぐ口に出すようにしているそうです。口に出すことでそれが自分の中で大きくなり、実現が近くなるとおっしゃっていました。やりたいことを行動に移すことが、仕事を見つけることの第一歩になるのではないかと考えました。また、その講師の方は、やっていることに対して文句を言う人がいても、それは嫉妬をしているだけであるからそれを糧にしてやっていくと良いとおっしゃっていました。

★海外の企業に勤めていた方や、会社を経営している方、ボランティア活動をしている方など、普段では接する機会がなかなか無い方々との話はどれも興味深いものでした。会社を経営している人が社員へ気をつけていること、社員が会社に対して気をつけていることと別々の方面からのアドバイスを聞いたのは良かったと思います。会社ではお互いの信頼、分かり合いが必要になってくることが分かりました。また、チャレンジする心構えや積極性はボランティア活動をしていた講師の方の話からよく伝わってきて、これは会社で働くうえでも必要となることだと思いました。

■今回のディレクトフォースを行う前と後で、外国に対する考え、ものごとを行うことに対する考えが大きく変わりました。これからも今回聞いたことを意識しながら生活したいと思います。